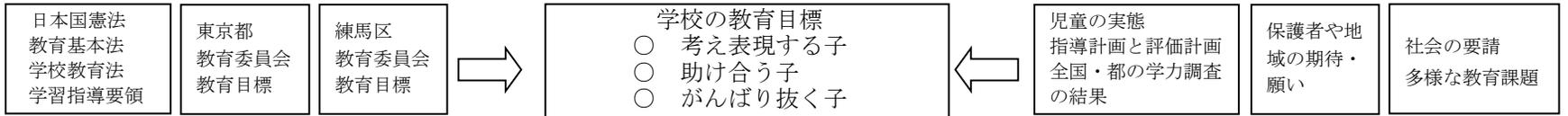


令和4年度 南田中小学校授業改善推進プラン

学力向上を図るための全体計画



学校標語 「笑顔かがやき 優しさいっぱい」

学校経営方針（学力向上に関わる要点）

- 「分かる・できるようになる授業」による基礎基本の定着
 - ・授業のユニバーサルデザイン
 - ・個に応じた指導の工夫
 - ・算数習熟度別少人数指導（全学年で実施）
- 「主体的・対話的で深い学び」を促す授業の推進
 - ・言語能力の確実な育成
 - ・児童の学習への意欲や思考、判断力および表現力を高める
 - ・既存の知識、技能を活用しながら自ら課題を発見し解決に向けて学習の仕方を身に付ける（問題解決的な学習）
- 読書の習慣化と読書教育の充実
 - ・南田中図書館、学校図書館の活用 夏休みの課題として、3年生以上全児童の「図書館を使った調べる学習コンクール」の参加
- 幼保小連携教育、小中一貫教育の推進

各教科の指導の重点

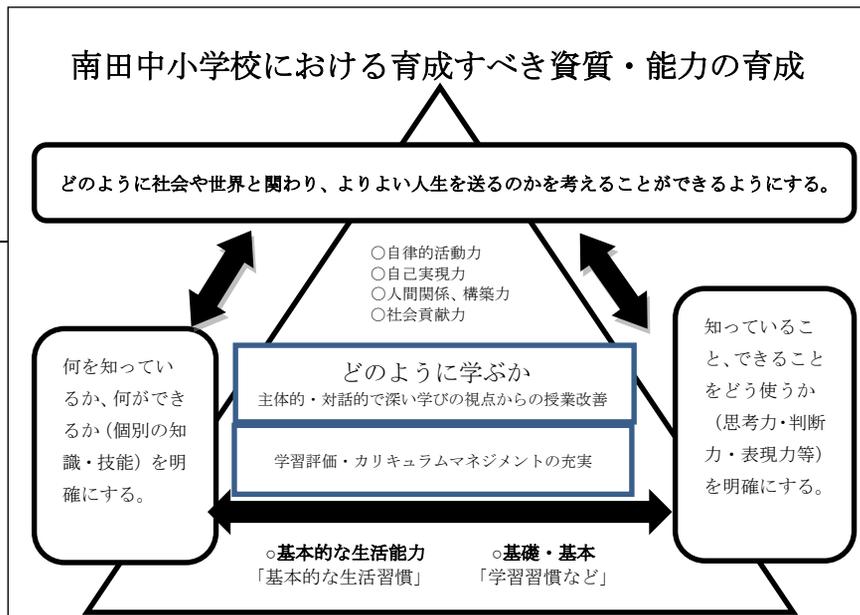
- ・基礎的・基本的な知識および技能の確実な習得
- ・算数習熟度別指導の推進、東京ベシック・ドリル診断シートの活用
- ・課題発見と課題設定の工夫
- ・意欲を引き出す過程の重視
- ・互いに認め合い、学び合う場の設定
- ・多面的に物事を考える場や自分の考えを発表する場の設定
- ・体験的な学習や問題解決的な学習の推進
- ・補充的、発展的な指導の充実
- ・よさや可能性を伸ばす評価の工夫

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・実社会や実生活との関わりを重視した探究的な活動の推進
- ・自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考える活動の展開
- ・学び方やものの考え方を身に付ける活動の推進
- ・各教科等との関連による深化
- ・自ら学ぶことの習慣化

外国語活動・外国語科における指導の重点

- ・外国語に慣れ親しみ、学ぶ意欲やコミュニケーション能力の向上
- ・言語や文化に対する理解を深め積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成



【学力向上を図るための基本方針】

- 「一人一人が主体的に取り組み、表現できる児童の育成」という校内研究主題と、「基礎学力の定着」「相手に分かりやすく説明すること」「多様な考えを出すこと」を重視し、授業改善に努める。
- 各教科・領域にて言語活動をより充実させ、思考力・判断力・表現力等をはじめとした資質能力の育成を図る。
- 区立南田中図書館を活用する計画を見直し、並行読書等の推進、読書の質や読書量を向上させるなど、読書習慣および読書活動の充実を図る。3年生以上児童全員が夏休みの課題として「図書館を使った調べる学習コンクール」に応募し、調べる力、まとめる力の向上を図る。
- 小中一貫教育では、近隣の授業公開や児童理解に関する情報交換を行うことで、小中9年間を見通した系統的な指導を実践する。

特別の教科道徳の指導の重点

- ・道徳的価値の意義や大切さの理解
- ・考え、議論する道徳への転換
- ・多面的・多角的に考える学習を通しての自己理解、他者理解
- ・各教科等との関連性を明確にした指導計画に基づいた補充・深化・統合

特別活動の指導の重点

- ・心身の調和のとれた発達と個性の伸長
- ・集団の一員としての自覚とよりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度の育成（特別支援学級との交流を含む）
- ・活動目標をつくり、その達成方法を話し合っって役割分担するなど、自己を生かす能力や合意形成能力の育成

生活指導における指導の重点

- ・挨拶が飛び交う学校
- ・基本的な生活習慣の定着
- ・学校いじめ対策基本方針に基づいたいじめの未然防止・丁寧な対応
- ・教育相談の充実
- ・安全教育の充実
- ・南田中小SNSルールを活用・更新

キャリア教育における指導の重点

- ・夢や希望、憧れる自己のイメージを描き、努力する態度の育成
- ・勤労を重んじ、自己の役割を果たす態度の育成
- ・学習の見通しをもち、振り返る習慣の育成
- ・キャリア教育で目指す基礎的・汎用的能力の育成

本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫・幼保小連携教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的で深い学びの視点から授業改善に努める。 ・算数は、全学年3展開による習熟度別学習を実施する。 ・夏休み教室や放課後学習、地域未来塾等を活用し、基礎学力の定着を図る。 ・タブレット端末や実物投影機やプロジェクター等のICT機器を活用した授業改善に努める。 ・授業におけるユニバーサルデザインを意識し、個に応じた指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科や行事等との関連を考えながら、年間指導計画を立て、効果的に学習できるように配慮する。（カリキュラムマネジメント） ・特別支援学級と通常の学級との交流および共同学習を計画的に行い、理解教育の啓発を図る。 ・南田中図書館との連携を通して読書活動を充実させたり、情報処理能力の育成を図ったりする。 ・体力調査結果および体力向上推進プランを活用して、日常の体育授業の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動・外国語の研究では「関わり合うこと」を重視した授業づくりに取り組む。 ・特別支援学級の研究では、キャリア教育「自己肯定感を高め、主体的に行動できる児童の育成」を通して授業の充実を図る。 ・人事考課制度の授業観察を活用して、互いに授業を見合い、授業力の向上に努める。 ・日常的に授業を公開するとともに、教員相互の授業参観を実施する。 ・スクールカウンセラーによる研修会を行い、児童理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動をPDCAサイクルで常に評価・点検し、改善策を検討する。 ・各教科・領域の指導計画や評価計画を見直し、適正かつ信頼ある評価につなげていく。 ・学校公開等の保護者アンケートの結果を次年度の取組に反映させる。 ・学校関係者評価の課題を明らかにし、次年度の教育活動に反映させる。 ・全教員による自己評価の結果を基に改善を重ね、共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜授業を公開し、保護者が参観しやすい体制を整える。 ・タブレットを活用してページドリル、家庭学習に取り組み、基礎・基本の定着を図る。 ・ナンタナスタンダードをもとにした学習を行い、家庭との連携を図る。 ・地域の人材と連携・協働した教育活動を推進する体制づくりを進め、教育課程の中で効果的に行えるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育では目指す児童生徒の資質能力を検討し、指導の改善を図り、授業公開や協議会等を実施する。 ・幼保小連携教育では、各教科等の学習に円滑に接続できるようにスタートカリキュラムを編成し、交流活動等を通して、互恵性のある連携が実現できるよう努める。